

研修名 (テーマ)	幼児期養育、保育「全体的な計画に基づく指導計画の作成」 「観察を通しての記録及び評価」		
日時	令和元年 5月31日	会場	公益社団法人全国和牛登録協会
主催	京都府 保育協会	講師	大阪総合保育大学 学長 大方 美香 氏
<p>(1) グループワーク(色水) 色水と聞いて発想するもの(展開、気づきの違い、試す、色の変化、見立て等)</p> <p>○どのような素材 季節 場面(例プール遊び中)によって準備物が違う。遊びの予測と展開に合わせて環境構成をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育者の事前準備が8割、子どもの主体性は2割 保育者が濃度や子どもの姿を予測して試行錯誤して事前準備することが重要。 ・本を見て出来るのではなく昨日の続き、以前したこと経験によって同じ色水遊びでも保育経験によって遊びが違う。自分の発想だけではなく遊びの広がりがある。互いにアドバイスしたり、イメージを共有することが大切。 ・素材…ポスターカラーと花とでは経験する内容が違う 感触の違い、色の変化、濃度。手早く遊べる。 <p>自分で色を作る(すり鉢ですりつぶす経験)入れる容器入れやすいもの入れにくいものを用意する(入れる、そそぐ経験)遊びが家庭での生活にもつながる。</p> <p>色水遊びの中に色々な学びがある</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、身近な環境 2、自然事象の変化 3、表現(イメージを広げて遊ぶ) 4、言葉(流れる、注ぐ、じゃー等の語彙の獲得や表現) 5、数量(〇〇つつ混ぜる、合わせる、半分つつ) 6、色の変化、物質 砂との違いに気づき、水はつかめない遊びを通じての学びが小学校への学びに繋がる。 7、探求心(繰り返し試す) 考える、違い、予測する力、記憶する力、自分で考えて試すことが非認知能力を育てる。その為にたまたま置いているのではなく保育者がその力を引き出すために偶然置いてあるのではなく意図をもって環境構成をする必要がある。 <p>(2) 観察と記録</p> <p>保育者の気づきは簡単に自分ができるようにメモをする。</p> <p>記録の書き方…楽しんでいる遊びを書く。そこに子どもの名前を入れていくと書きやすい。</p>			

感想・学んだこと

一つの遊びをテーマに研修を受け、保育者同士共感できる点や違う視点、観点や発想に刺激を受けました。

研修では、保育者の環境構成や関わりによって遊びの展開が変わってくる。その為に子どもの姿を十分に予測して事前準備をする必要性を話された。遊びの中に様々な学びがあってその学びがまた次の遊びに繋がる。一つの経験が次の遊びに繋がりまた新たな経験に繋がる。日々の保育や家庭生活の中すべてが、子どもたちの学びになり、その土台が小学校の学びに繋がっていくことの大切さについても実例を挙げて話をして下さりわかりやすかった。実際に保育の中で見られる場面も多々あった。

経験を通して子どもの育ちや感性に大きな影響を及ぼすことを学び、保育者としての役割の大切さを感じた。子どもの持っている力をうまく引き出したり、発揮できる環境や関わりを次年度に繋げるためにも子どもの楽しんでいる姿をわかりやすく記録する必要がある。年間を通して育つて欲しい力や今の姿とこの先育っていくであろう姿を見通した保育をする。その場限りの保育ではなく積み重なる保育をしていきたいと思った。

(記録 のぞみ保育園 高崎 優、喜納 初美)

感想・学んだこと